

今年のインフルエンザは強力？

40度近い高熱 成人患者急増

県内 猛威

岐阜市内
での受診

大人が子供の2.5倍

【本報】岐阜県内各地では、インフルエンザの猛威があらわれ、患者数は急増している。小・中学校の児童も感染が相次いで報告されているが、今般は高熱が続き、重症化している患者も大人の場合も増加している。マインツインザウィルが流行している。

二十日現在の県内患者数は、岐阜市が二万四千二百人、岐阜県が二万九千八百人、合計五万三千二百人。このうち、大人が二万九千八百人、子供が三千四百四十人。大人と子供の患者数を比べると、大人が子供の二点五倍に達している。これは、今年の特徴である。通常は、大人と子供の患者数はほぼ同数である。今年の特徴は、高熱が続き、重症化している患者も増加していることである。岐阜市では、二十日現在の患者数は、二万四千二百人。このうち、大人が二万九千八百人、子供が三千四百四十人。大人と子供の患者数を比べると、大人が子供の二点五倍に達している。これは、今年の特徴である。通常は、大人と子供の患者数はほぼ同数である。今年の特徴は、高熱が続き、重症化している患者も増加していることである。



岐阜市内の病院で、インフルエンザの患者が受診している様子。医師が聴診器で患者の口元を確認している。背景には家族や看護士が立っている。

【本報】今年の特徴は、高熱が続き、重症化している患者も増加していることである。岐阜市では、二十日現在の患者数は、二万四千二百人。このうち、大人が二万九千八百人、子供が三千四百四十人。大人と子供の患者数を比べると、大人が子供の二点五倍に達している。これは、今年の特徴である。通常は、大人と子供の患者数はほぼ同数である。今年の特徴は、高熱が続き、重症化している患者も増加していることである。